

# 日立金属株式会社

## 2018年度中期経営計画 進捗状況

### [目次]

1. 2017年度総括、取組概要
2. 2018年度業績目標
3. 事業環境、めざす姿
4. アクションプラン

2018年4月26日

# 1-1. 2017年度総括

(金額単位:億円) ( )は利益率	2016年度実績 為替レート1\$=108円	2017年度実績 為替レート1\$=111円	前年度対比
売上収益	9,105	9,883	+9%
調整後営業利益	(7.2%) 660	(6.6%) 651	△9
EBIT	685	489	△196
税引前当期利益	660	470	△190
当期利益*1	506	422	△84
ROE*2	9.4%	7.5%	△1.9%
ROA*3	4.9%	4.0%	△0.9%

- 3つの利益押し下げ要因への施策実行・解決に目途(耐熱鑄造部品、アルミホイール、原材料価格高騰)
- 3つの横串し改革加速(研究開発、モノづくり、営業)
- ステークホルダーとのコミュニケーション強化(タウンホールミーティング:2,000名超の社員と直接対話、投資家との直接対話機会の充実、積極的なトップ営業)

- 社風の変化：経営の透明性・信頼感、価値観の共有、社員のモチベーション向上

## 新しい価値創造を志向する前向きな企業文化

\*1 親会社株主に帰属する当期利益 \*2 親会社株主持分当期利益率(ROE) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期末親会社株主持分 × 100

\*3 資産合計当期利益率(ROA) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期末資産合計 × 100

## グローバル事業領域拡大、事業基盤強化に向けた戦略投資を実行

オーガニック  
グロース  
(設備投資, R&D)

- コーポレート研究所“GRIT”開設(投資額約100億円)  
(2017年4月開設・2018年4月新建屋開所)
- 精密鑄造タービンホイールの生産能力増強(投資額30億円超)  
(2019年度～稼働)
- 日本、中国でピストンリング材の増産体制確立(投資額約25億円)  
(2017年度下期～稼働)
- SHカッププロダクツと日立金属ネオマテリアル統合(2018年4月)  
• 土浦工場でクラッド材の生産能力増強(投資額約75億円)  
(2018年度下期稼働)
- 圧延ロール、構造用鑄鋼品の生産能力増強(投資額約30億円)  
(2018年度下期稼働)
- 磁性材料革新的ライン導入(総投資額約180億円)(2018年度上期稼働)
- ファインメット®生産能力増強(2018年度末までに3倍へ)
- 配管機器の生産能力増強、生産効率向上(投資額約30億円)  
(2018年度稼働)

## グローバル事業領域拡大、事業基盤強化に向けた戦略投資を実行

### ポートフォリオの 継続的な刷新

- ・配管機器事業の再編（2017年10月）
- ・ローム株式会社のSiCパワー半導体製造プロセス一部受託検討開始
- ・パワーエレクトロニクスマテリアルズ事業推進室設置（2018年4月）

### M & Aによる成長

- ・日立金属MMCスーパーアロイ合併、桶川工場発足（2018年4月）
- ・株式会社三徳買収（2018年4月）

### 経営基盤の強化

- ・モノづくり改革による棚卸資産回転率、不良率の改善
- ・サーチャージ制の見直しと価格改定
- ・各種ESG指数への組み入れ（GPIF選定3指数、なでしこ銘柄 他）

# 日立金属株式会社

## 2018年度中期経営計画 進捗状況

### [目次]

1. 2017年度総括、取組概要
- 2. 2018年度業績目標**
3. 事業環境、めざす姿
4. アクションプラン

### ■ 価格是正

コーポレート主導による「限界利益の総和の極大化」するプライシング

サーチャージ制見直し・適用拡大(非適用品の価格改定)

### ■ 投資の早期立ち上げ・効果刈り取り

特殊鋼製品

1万トン自由鍛造プレス、クラッド材、圧延ロール等

磁性材料

革新的生産ライン、三徳買収等

素形材製品

配管機器向け新鑄造ライン等

電線材料

新連続鑄造圧延ライン、巻線革新的生産ライン等

コーポレート

コーポレート研究所 GRIT新建屋開所

「新しい日立金属」のスタートの年

## 2-2. 2018年度中期経営計画 主要経営数値

(金額単位:億円) ( )は利益率	2017年度実績 為替レート 1\$=111円		2018年度計画 想定為替レート 1\$=105円
売上収益	9,883		10,200
調整後営業利益	(6.6%) 651		(7.2%) 730
EBIT	489		670
税引前当期利益	470		645
当期利益	422		480
ROE	7.5%		8.3%
ROA	4.0%		4.5%

- 為替は円高傾向(2017年度実績111円/\$→2018年度想定105円/\$)
- 主要製品を中心に堅調な需要が継続見込み
- 積極的な設備投資により固定費が増加するが、価格是正の効果、課題事業の収益性改善および増産益刈り取りにより増益

## 2-3. セグメント別売上収益 調整後営業利益

(金額単位: 億円)		2017年度実績 (為替レート1\$=111円)	2018年度計画 (想定為替レート1\$=105円)	前年度対比
特殊鋼製品	売上収益	2,906	3,200	+10%
	調整後営業利益	279	310	+31
	利益率	9.6%	9.7%	+0.1%
磁性材料	売上収益	1,061	1,150	+8%
	調整後営業利益	96	75	△21
	利益率	9.0%	6.5%	△2.5%
素形材製品	売上収益	3,601	3,450	△4%
	調整後営業利益	118	170	+52
	利益率	3.3%	4.9%	+1.6%
電線材料	売上収益	2,305	2,400	+4%
	調整後営業利益	149	170	+21
	利益率	6.5%	7.1%	+0.6%
その他・調整額	売上収益	10	0	—
	調整後営業利益	9	5	—
合 計	売上収益	9,883	10,200	+3%
	調整後営業利益	651	730	+79
	利益率	6.6%	7.2%	+0.6%



### グローバル事業領域拡大、事業基盤強化に向けた戦略投資を実行

	2016年度実績	2017年度実績	2018年度予想
営業キャッシュフロー	894億円	391億円	1,100億円
設備投資額	638億円	918億円	1,000億円

	2016年度実績	2017年度実績	2018年度予想
減価償却費	430億円	461億円	550億円
研究開発費(情S*除く)	156億円	177億円	210億円

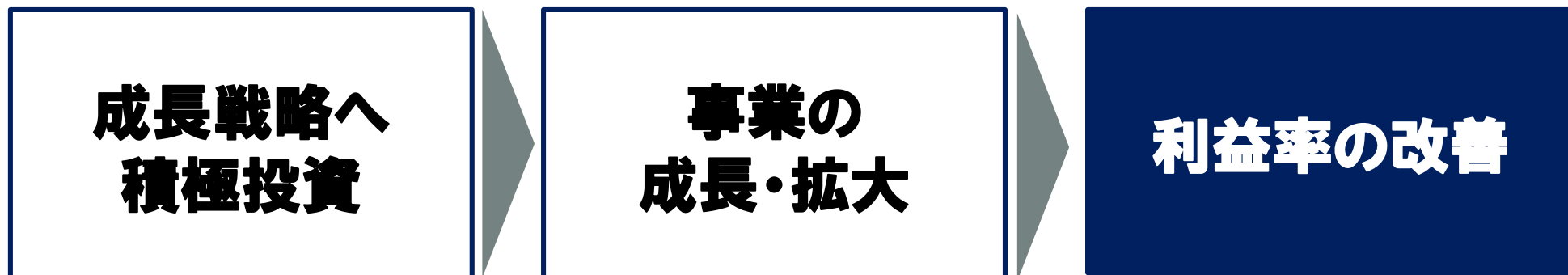
成長戦略の着実な実行により、キャッシュを創出できる体質へ転換

\* 情S:情報システム事業(2016年12月1日付で譲渡)

### ■配当の状況

	中間配当金	期末配当金	年間配当金
2015年度	13円	13円	26円
2016年度	13円	13円	26円
2017年度	13円	13円 (予想)	26円 (予想)
2018年度	13円 (予想)	13円 (予想)	26円 (予想)

### ■2018年度中期経営計画 株主還元方針



**成長と株主還元のバランスを実現(配当性向30%目標)**

# 日立金属株式会社

## 2018年度中期経営計画 進捗状況

### [目次]

1. 2017年度総括、取組概要
2. 2018年度業績目標
- 3. 事業環境、めざす姿**
4. アクションプラン

### 市場・技術トレンド

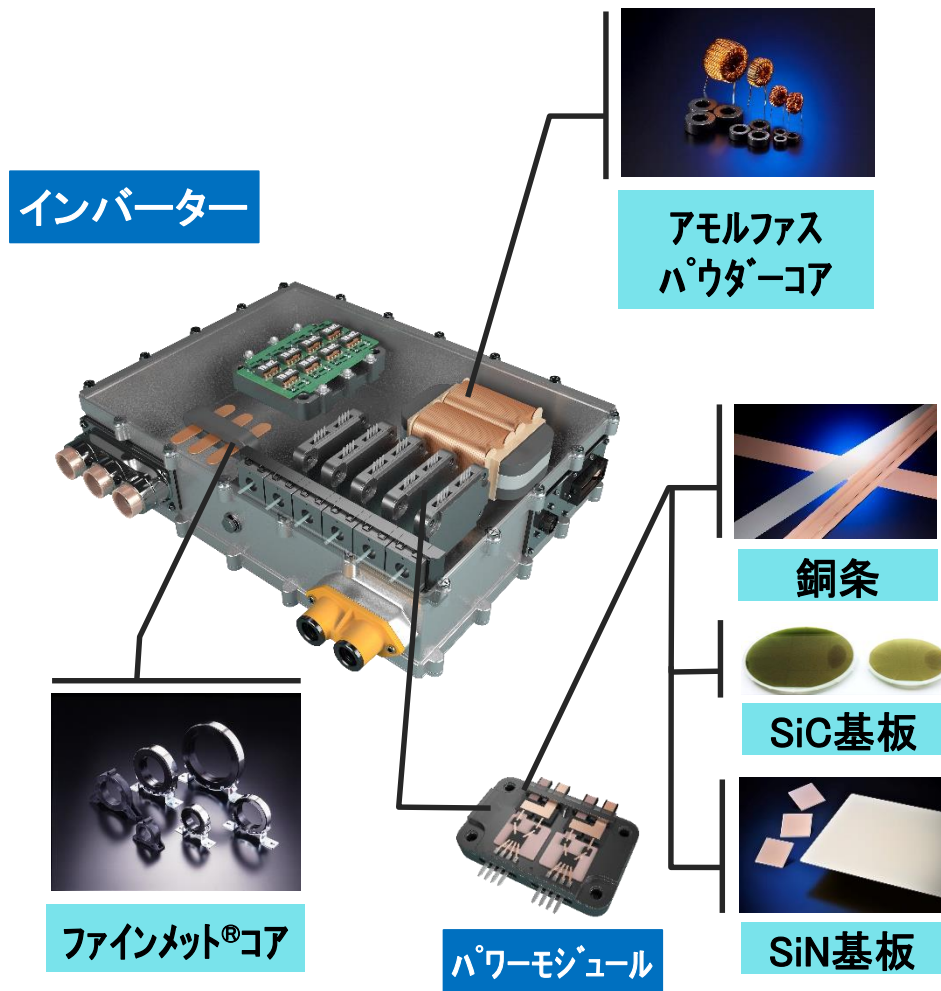
- ・環境規制強化と対応技術ニーズ増大
- ・IoTを活用した新サービス、新技術
- ・素材技術の進化加速

### 当社の特徴・強み

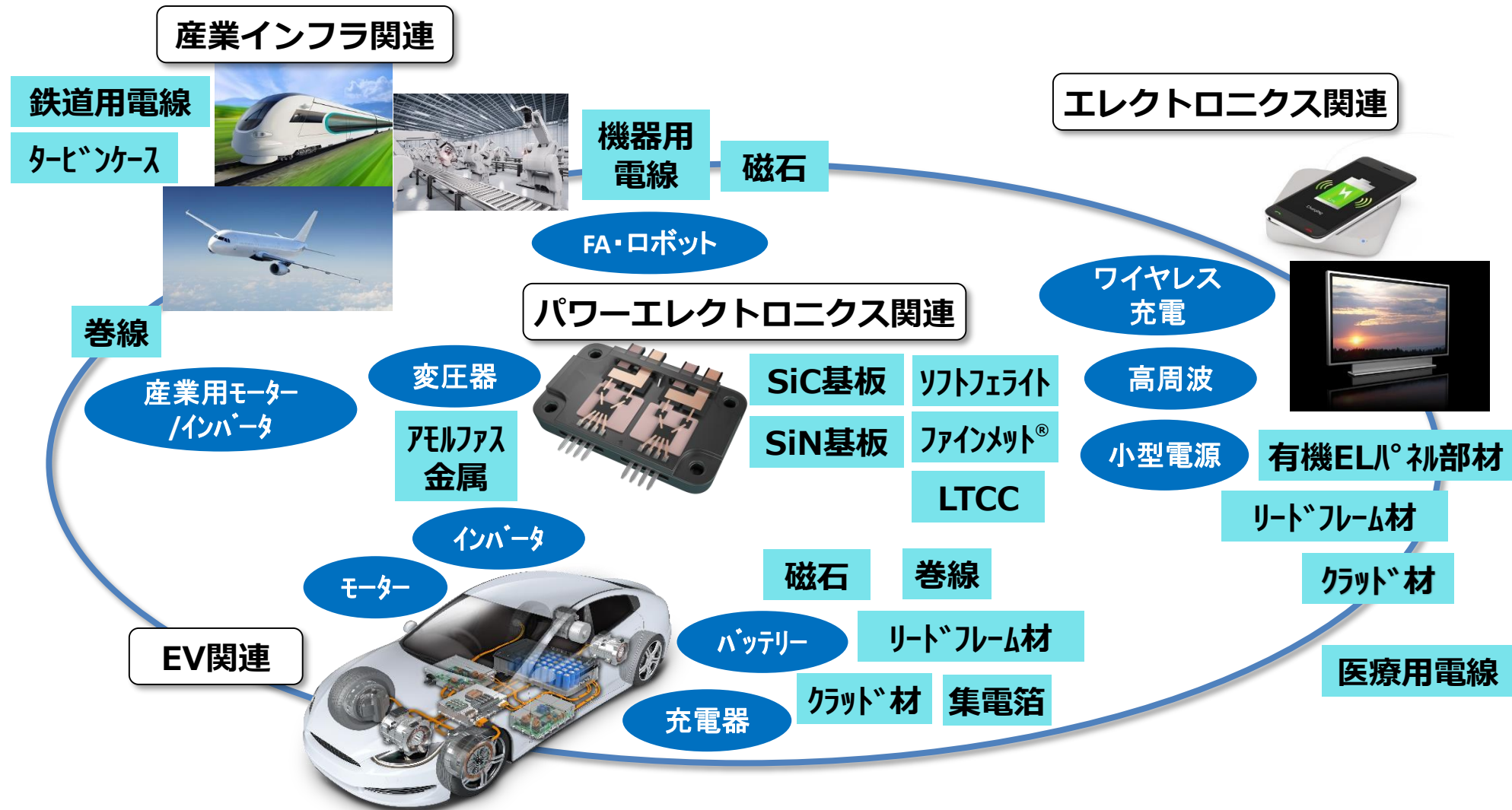
- ・歴史に裏付けられた多様性のある事業ポートフォリオ
- ・特殊品、環境親和製品中心の高い技術力

**日立金属らしさ＝コングロマリット・プレミアムを発揮**

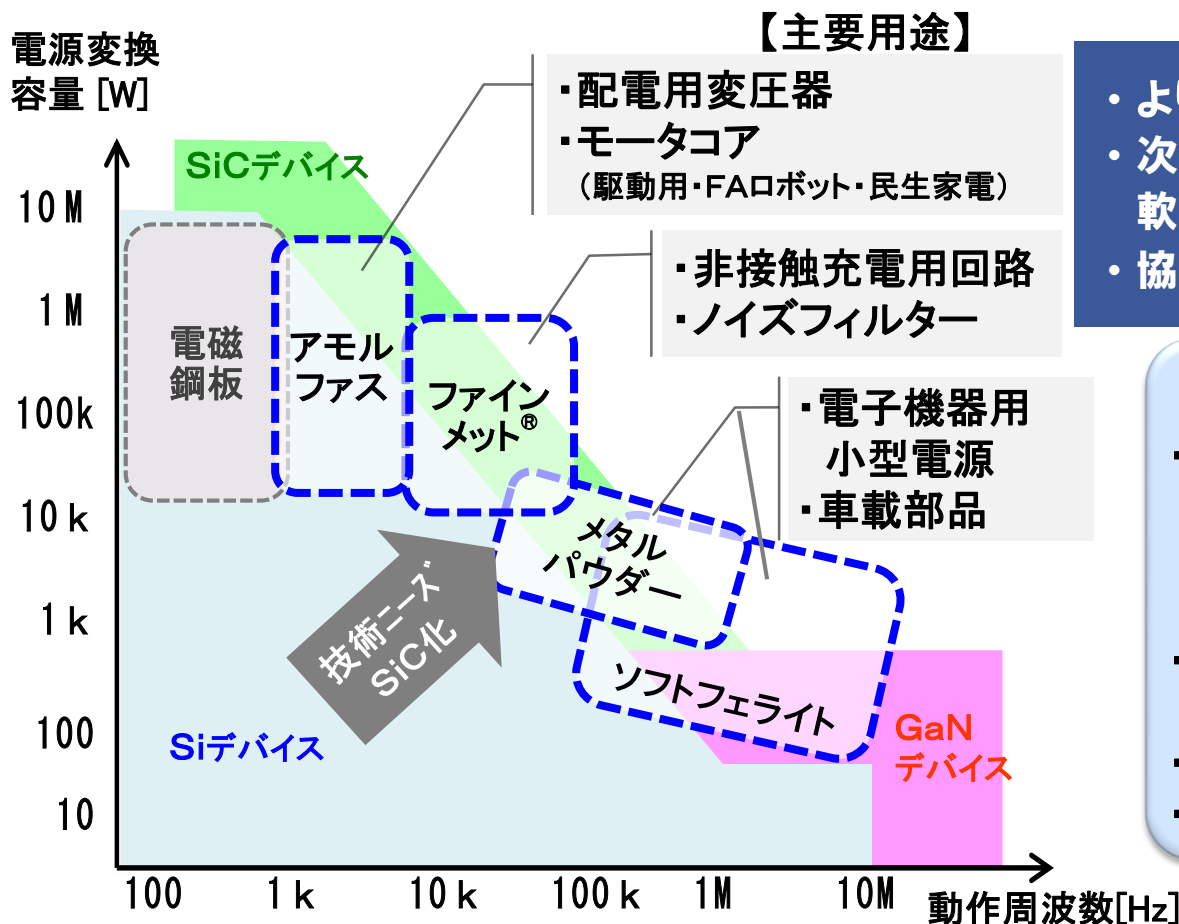
## 素材で未来を創造するトータルマテリアルイノベーター



## 素材で未来を創造するトータルマテリアルイノベーター



## 「変化をチャンスに」 第5の柱として成長



- ・より「省エネ・高効率」、より「小型・軽量化」に
- ・次世代パワーデバイス実用化により、軟磁性部材市場も拡大
- ・協業による成長スピード加速検討

**【軟磁性部材】**

- ・アモルファス
- ・ファインメット®  
(ナノ結晶軟磁性材)
- ・金属材料
- ・ソフトフェライト

**【情報部品】**

- ・SiC基板 (研磨等)
- ・SiN基板

**360億円 (2017年度) ⇒ 1,000億円をめざす**



## 研究開発 (GRIT)

- ・脅威とチャンスを見据えた新事業創生テーマの推進
- ・人財育成・教育機能の強化(営業部門、グループ会社)
- ・営業と連携した技術の目利き機能・R&Dスピードの強化



## 営業

- ・GRITを活用した経営トップ含めた重層的な提案活動
- ・アカウント営業体制構築による顧客との関係強化
- ・事業横断プロジェクトの遂行



## モノづくり

- ・「現場改革」と「技術革新」の二本柱での活動
- ・現場改革推進本部設置
- ・IoTを活用したマテリアルフロー全体での技術革新



真の開発型企业

質の量産








# 日立金属株式会社

## 2018年度中期経営計画 進捗状況

### [目次]

1. 2017年度総括、取組概要
2. 2018年度業績目標
3. 事業環境、めざす姿
4. アクションプラン

## “Specialなハガネ”にこだわりグローバルで成長

工具鋼		1万トンプレスを活用した新製品の開発と拡販
産業機器材料		好調な内燃機関向け需要への安定供給体制確立 非内燃機関事業の育成(3Dプリンター用粉末、半導体製造装置部材など)
航空機・エネルギー材料		航空機エンジン向け部材の認定・量産期間短縮
電子材料		有機EL関連部材、電池用クラッド材向け大型投資の推進
ロール		鋳造ロール、建築部材の新設備立ち上げと早期戦力化

## 効果刈り取りにより、過去最高益を狙う

### 特殊鋼カンパニー 売上計画

2,906億円 (2017年度実績) ⇒ 3,200億円 (2018年度)

# 2,000億円体制に向けた事業基盤の確立

### 生産能力の 増強

革新的生産ラインの  
稼働開始



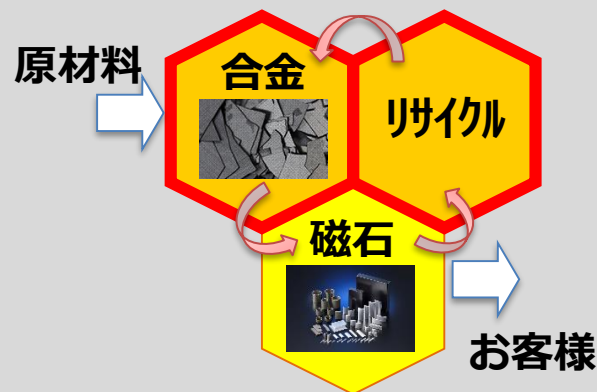
ネオジム磁石  
(2018年4月稼働)



フェライト磁石  
(2018年2月稼働)

### 原材料プロセスの 一体管理

三徳子会社化により  
一貫生産体制を確立  
(2018年4月)



### 重希土類の 使用量抑制

重希土類リ-磁石を  
多様な分野で展開  
(自動車、産業、家電で採用)



資源リスクを低減

磁性材料カンパニー 売上計画  
1,061億円(2017年度実績) ⇒ 1,150億円(2018年度)

## 課題事業

### 耐熱鋳造部品



生産性改善施策  
価格是正

2017年度末 黒字化  
2018年度 利益体質化

### アルミホイール



生産性改善施策  
経営体制の刷新

2017年度 混乱収束  
2018年度 事業安定化推進

## 配管機器事業

### 鋳物継手

投資：生産効率向上  
(2018年度 稼働)



### フレキシブル配管システム

投資：20%能力増強  
(2018年度 稼働)



### ソリューションビジネス

幅広い品揃え  
ガス制御・計量技術  
保守管理支援サービス

将来的な軽量化を視野に入れた  
プロダクトミックス最適化

2021年度  
売上収益700億円へ

素形材カンパニー 売上計画  
3,601億円(2017年度実績) ⇒ 3,450億円(2018年度)

## 成長分野を5つに拡大し、高収益体質への変革を加速

### 拡大した2分野への中長期的施策

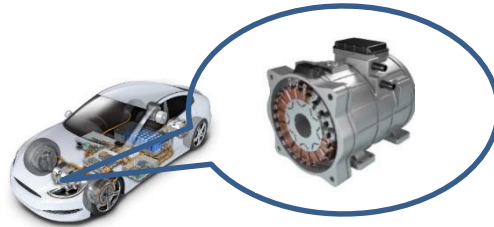
FA・ロボット向け  
機器用電線

成長市場のアジア  
へ生産能力増強  
(18年度4Qより  
増強設備順次稼働)



EV用  
マグネットワイヤ

新設備の早期戦力化  
(新型連続铸造圧延ライン  
によるHiFC®量産化と  
革新的生産ラインの稼働)



### 3分野向け施策

鉄道



中国・欧州への拡販

医療



電線+チューブ複合化  
製品の投入

電装部品



EV向け  
新配線部品量産

電線材料カンパニー 売上計画

2,305億円(2017年度実績) ⇒ 2,400億円(2018年度)

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となる主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米州、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動